

望月神戸幼稚園長の退職

神戸幼稚園長として我が保育界に令名を馳せてゐられた望月クニ女史は、去三月を以て其の職を辞されました。後進に道を譲るためのこころを察せられますが、神戸幼稚園の望月女史でなくなつても、當年六十六歳、尙矍鑠として壯者を凌ぐ元氣は、日本の幼児教育界の望月女史たるここに、何んの變りもありませんまい。殊に女史は、神戸の景勝地諏訪山麓武徳殿の東隣に「愛兒園」幼稚園を創設して、此の二月建築落成し、現にそこに起居して經營に當つてゐられる程で、こころを之れからの本據として一層自由なる活動を、我國保育界に寄與せられるこころを信ぜられます。

女史は明治元年十一月十七日岐阜縣土岐津町醫師遠山道榮氏の次女に生れ幼い時から男勝りで最初は醫師を希望したが途中から教育家を志願し明治十七年岐阜縣から選抜されて東京女子師範へ入學、後高等師範學校、現東京女子高等師範の前身)となつたが同二十年同校を卒業した、鹿鳴館時代華かなころ絶えず同館に出入してダンスもや

れば議論もするといふ、所謂當時のモガさんだつたころはあまりにも有名な逸話である。のち仙台の高等小學校(當時女學校はなかつた)にやられ、二十二年大阪堺女學校に轉任二十三年當時大阪梅花女學校の教頭であつた望月與三郎氏と結婚し二十五年夫と共に神戸へ來り布引に松蔭女學校を創設、間もなく出資者フォースなご意見合はず去り、二十六年岡山女子師範へ轉校同校は間もなく廢校となつたが同幼稚園に三十年までごごまり、三十五年兵庫幼稚園、三十六年京都府立第一高女を経て三十九年四月神戸幼稚園へ轉任、爾來滿二十七年同園の發展に力を盡し一時教育に疑義を生じたが夫の親友松本亦太郎博士の紹介で當時京大大學院で實驗心理學を研究してゐた檀崎淺太郎博士(現東京文理大教授)に指導され苦心慘憺六年前やつこ現在布いてある個性教育の方針を確立したもので、女史の努力によつて神戸幼稚園が完成されたものといはれてゐる。夫は十數年前死別したが現在

三男二女共九人のお孫さんがあり、長女綾子さん(四〇)は大阪控訴院天野宗太郎氏に嫁ぎ長男晃は死亡、次男丈次氏(三五)は神戸で自働車商を営み三男活三氏(三二)は大坂商船あめりか丸の機關長、四男成思氏(三〇)は東

京正金銀行に務め次女シマ子さん(二七)はサンフランシ

スコの美術商柴田一郎氏に嫁ぎいづれも榮えて居る。

(神戸又新日報の記事による)

たより

○保育實習生二十四名、この三月卒業、親もとを離れて愈々一人立ちとなりました。何かと皆様方のお世話さまになることゝ存じます。何分よろしくお願ひいたします。

○主事のことばもう止めようと思ひました。がればつかりはと存じまして。それは或る會で餘興に是非業平朝臣になるべき人が入用、校長は直ちに倉橋主事を選定、事の意外に呆氣にとられた主事も、「どうして、なか／＼大したものと附言され

ましては自信が出たやうでした。さあ、

それ以來冷かされるのなんのつて、とこ

ろが古往今來稀に見る業平に擬せられる

ことは滿更でもない様です。その後今

業平氏、ふさはしき小町もがなと見まは

したところ、これは／＼ふとつちよ小町

に瘦せ小町、喰ひしんぼ小町に眞黒小町

と、つく／＼と味氣なさに、中野なる千

光の里にてひたすら思ひを詠歌によせて

居られるさうでございます。

○同じ會にて。及川保姆はやはり校長より

「及川さんはなか／＼姿がいゝです、肥り

すぎでもなし、瘦せてもぬす、まあ中肉

中………」とほめられました。あいにく

この中………は、はつきり聞えませんが

したが。上に業平主事、中肉中………保

姆をいたゞいて保育道にいそしんでゐる

ことは、願つてもなき仕合せと保姆一同

話しあつたことでございます。

○今年は春雨と名のみうるはしき降りの日

多く、いつ迄もお寒うございます、みな

様お大事に。(新庄)